

委員名	発言の要旨
委員 A	〈農業について〉 ・新規就農者の育成は、市や県、JA 等が連携して行っているが、燃料や資材の高騰により非常にコストがかかるようになり、敷居が高くなってしまっている。 ・第3次総合計画に向けては、引き続き新規就農者や定年帰農者の育成・支援というところから、担い手不足や耕作放棄地問題の解消など、地域農業の振興を考えていきたい。
委員 B	〈スポーツについて〉 ・今後、高齢者が増加していく中、高齢者を対象とした、気軽に身体を動かすことができるような事業や取組を実施することで、健康増進や生きがいづくりにつなげていく必要がある。 ・スポーツや運動の必要性について認識を高めるために、広報や HP など周知するとともに、生涯スポーツのきっかけづくりを整え、スポーツや運動をする人を増やしていく必要がある。 ・スポーツや運動の普及には、福祉健康など幅広い分野で展開していく必要がある。また、観光とスポーツを一体とした地域の活性化等も考えていく必要があると思っている。
委員 C	〈農業について〉 ・農業の後継者不足について、後継者がいない理由として、収入の少なさが挙げられる。 ・現在の個人による農業では、これからの伊豆の国市の農業をしっかりと形でアピールすることは難しい。 ・農業法人のような組織を立ち上げ、そこに若者が農家として就業できるというようなことを、行政としても考えていく必要があるのではないか。
委員 D	〈観光について〉 ・団体旅行から個人旅行に大きくシフトし、その場に行って、そこにしかないものを消費するというニーズが高まっている。 ・観光と農業の連携やいろいろな形での新たな体験を副業として成長させていくことで、新たな力になっていけば良いと思う。
委員 E	〈部活動について〉 ・運動部系の部活動は地域でというところがあるが、文化系の部活動については、地域の産業と連携するということが考えられるのではないか。 ・観光での取組や地域の資源の磨き上げといった部分に子どもたちが参加できるのではないかと。
委員 F	〈学校の統合について〉 ・これ以上子どもが多く生まれるということは考えづらい状況の中、やはり今後、学校を統合していくこともあると思う。もし、そういう計画があるのなら、地域に根差した学校を作っていくという計画がある以上、早め早めに公表してもらいたい。学校の統合にあたっては地域の理解と協力が必要になってくる。

令和6年度 第1回 伊豆の国市総合計画審議会
第2次総合計画の進捗状況に対する意見一覧

委員 G	〈都市計画について〉 ・生活軸である鉄道を中心とした市街地と、自然景観のなかの集落がどう連携していくか、公共交通が課題となっているのではないかと感じた。 〈セーフティーネットについて〉 ・今後、近親者のいない単身高齢者が急増されると言われる中、現在家族が担っていた機能を、社会で対応していく仕組みが必要となってくる。国としての取組もあるかもしれないが、具体的には地域でもそういう取組が重要になってくると思う。 ・例えば、通院同行などの日常生活支援ができない、入院や介護施設入所の際の身元保証ができない、あるいは死亡した後の納骨や家財処分などの死後対応を誰がするのかなど、こういう社会が待っていると言われている。 ・また、人と関わらない、関われない方は認知症がかなり進んでいく傾向にある。毎日人と会話できる環境、人と人との繋がりづくりが健康に大きく影響していると言われている。 ・孤立しない対策、望まない孤独や孤立の対策として、友人や近隣の人と親しい関係、助け合える関係性を構築できるよう、交流の場や居場所を作ることが非常に重要だと思う。
委員 H	〈災害 DX について〉 ・災害 DX の一例として、三島市では、デジタルサイネージを活用し、観光と災害を組み合わせるということを検討している。 ・平時には、インバウンド向けの案内やナイトタイムエコノミーに寄与する取組を行い、有事の際には災害用に活用するといったことも一計ではないかと思う。
委員 I	〈就業支援について〉 ・創業支援においては、IT 関係などのサービス業での起業が増えている。 ・少子高齢化という避けて通れない現状の中で、いかに創業・就業支援を行い、事業者を増やすかということが重要である。 ・地域の仕事を地域内で回すことで経済を循環させてほしい。 〈まちづくりについて〉 ・若者にとっては、活力のあるまち、安心して子育てができるまちということが、一番重要なファクターではないかと思っている。 ・高齢者にとっては、健康長寿のまち、ウェルビーイングのまちづくりということで、温泉と健康を結びつけた取組もある。 ・伊豆の国市には、若者からお年寄りまで、誰もが安心したまちづくりということがびったりではないかと思う。
委員 J	〈子育てと働き方について〉 ・子どもを預けられる場所が以前より増えてありがたい。 ・一方で、今は子育てと仕事がセットになっていて、子どもを預ける場所や居場所の整備はもちろん、子育てをしながら望む形の働き方ができる場所も必要だと思う。 ・例えば、リモートワークが可能な職業のあっせんやそれに限ったお仕事フェアなど。 ・男女関係なく、望む働き方を手に入れることが、子育ても人生も楽しい伊豆の国市につながると思う。

令和6年度 第1回 伊豆の国市総合計画審議会
第2次総合計画の進捗状況に対する意見一覧

委員 J	〈市民の意見聴取について〉 ・市民ニーズの把握という観点で、LINE やロゴフォームのアンケートが増え、以前より、自分たちの声が町に届いていると感じられるようになったので、今後もっと推進して行ってほしい。 ・中学生や高校生においても、自分たちの声が市に届き、自分たちの手で自分たちのまちをつくるということを体感できるような取組があれば良いと思う。
委員 K	〈災害について〉 ・ここ最近、大雨による災害が多くなっているが、山間部の農地が荒廃していることが原因の一つだと思っている。農地が荒廃したことで調整池としての役割が失われ、雨水がそのまま下流に流れてきているのではないかな。 ・下流に住むひとたちが上流に住むひとたちを巻き込み、普通の暮らしができるよう援助する体制ができてくれば、上流のひとたちが普通に農業をやっているのではないかな。伊豆半島の南部や沼津市も含めて考えることで、災害を減らせるのではないかな。 〈外国人の支援について〉 ・現在、所属している団体で外国人を対象とした日本語教室を行っているが、日本語検定を受けたいひと、日常会話をしたいひと、困ったことの相談をしたいひとなど、座席が足りないくらい多くの方が来ている。 ・日本の労働人口が減少し、外国人に頼らざるを得ない状況になっていく中、どのように外国人と付き合っていくかが課題だと思う。 〈部活動について〉 ・少子化により部活動がなかなか作れなくなっていく中で、部活動の代わりに、職業選択を考える機会として、例えば、地域に残っているお菓子屋さんやそういう職人のところに行って学ぶなどの活動を行ってはどうかな。
委員 L	〈防災について〉 ・防災においては個人一人ひとりの防災力が重要。 ・防災訓練においても、ただやっているという状況では絵に描いた餅になってしまうと思うので、一人ひとりが、何が大事で、本当に起こったときに何ができるのかを考えていく必要がある。 ・地域で自治活動をしている方は高齢の方が多いので、小学生や中高生などの若い力も借りることが一番ではないかと感じている。
委員 M	〈DX について〉 ・社会全体として DX の取組が推進されているが、効果や利便性は考慮すべきであり、全てをデジタル化すればと良いとは思っていない。 ・不特定多数に対する一斉の情報発信や、社会の基盤になるようなデータのやりとりについては、デジタル化したほうが良い。 ・防災の観点でいえば、災害が発生したときに特定個人向けの情報発信もできるようになるのかもしれない。 ・一方で、災害時のみ使用するシステムにすると、いざというとき使い方が分からないという事態にもなりかねないので、平時での活用方法も考えながら取り組んだ方が良い。

令和6年度 第1回 伊豆の国市総合計画審議会
第2次総合計画の進捗状況に対する意見一覧

委員N	〈地域福祉について〉 ・24時間体制で対応してくれる明確な相談窓口がほしいと感じる。
委員O	〈総合計画の進捗管理について〉 ・参考資料について、市民アンケートの結果として、各取組に対する満足度と、住みやすさへの影響度の記載がある。 ・住みやすさへの影響度が低い取組について、どうやって高めていくかという点も挙げてほしいと感じた。